

授業者 月野木 諭

展開場所 みなみっ子ルーム

1 題材名 「大地震から自分の身を守ろう」

2 題材について

(1) 題材の目的と内容

2年半前の3月11日に起きた東日本大震災を教訓に、文部科学省では「学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き」を作成し、全国の学校に配布して防災教育の充実を図ろうとしている。また、千葉県・千葉市教育委員会でも「学校防災マニュアル」の改訂を行い、防災教育の重要性が叫ばれている。

今年は、関東大震災が起きてからちょうど90年目の年となる。90年間の歴史を振り返ると、私たちに脅かす恐ろしい大地震は数多く発生している。阪神淡路大震災や新潟中越地震、さらには東日本大震災などと、記憶に新しい恐怖は私たちの生活と常に隣り合わせであり、全国各地に多くの被害をもたらしている。それだけ地震は日本にとって避けることのできない災害である。科学の発達から免震、耐震の構造の建物が多くなってきたが、常に最悪のことが起きうることを想定しなければ、東日本大震災のような想定外の大震災を受け入ることができない。最近では、首都直下地震や南海トラフ大地震などの地震も懸念されている。いざ地震が起きたとき適切な行動がとれるために、学校現場においては、さらなる地震防災の教育の強化が必要となってくる。

特に、大人がそばにいないときの行動などへも指導を進めていかなければならない。防災教育で最も大切なことは、まず自分自身の安全を確保することである。本題材では、地震防災を自分の問題として意識や関心を高め、実際に地震災害が発生した場合に、「児童自身が様々な状況の中で、知識や経験をもとに、より適切に判断し、自分の身を守りながら迅速に行動できる力」を、つけさせたいと考えている。

また、本校では防災教育を推進するために、いろいろな行事や教育活動に取り組んでいる。学校防災マニュアルに基づき、関連した教科(社会・理科・体育)や特別活動(学級活動・学校行事)などにおいて、防災教育のカリキュラムや指導資料を作成して、各学級を中心に計画的に実践している。さらに、文部科学省の指針にもあるが、今後の課題として、大きな災害のときに家庭や地域とすみやかに連携できるようにする必要がある。本題材をよい機会として捉え、保護者や地域の方に授業を参加していただき、本校の防災教育の理解を深め、大地震発生時に少しでも家庭や地域と連携が図ることができるようにしたい。

(2) 児童の実態から

「大きな地震が怖い」と感じている児童が7割いる。しかし、東日本大震災では、大きな被害を経験した児童はおらず、また2年半以上前の幼稚園や保育所のことなので忘れてしまっている児童も多い。だが、家族や周りの大人の話から、スローガンのように東日本大震災は怖いと言っているようである。怖いものであるという認識はなく、心底恐れているかどうかわからない。大きな地震が起きると、「塀が倒れる」「物が落ちてくる」、などの被害があるということも体験的に実感できていないため、児童には、阪

神淡路大震災の写真や映像を中心に、大地震の怖さについて確認し、身近にどのような危ないことが起きるのかを考えさせたい。また、都市直下地震がいつ起きてもおかしくないことを伝え、地震災害に対して真剣に取り組もうとする態度を育てていきたい。さらに、「停電」、「火災」、「断水」「交通渋滞」、「通信網の寸断」などの二次災害についても触れて、防災についての考えを広げていきたい。

また、児童には地震災害の危険を自分のものとさせるために、クロスロードの手法を使って、命をかけたジレンマの質問をして実際に自分がその場にいることを想定させて、よりよい行動がとれるようにさせたい。さらに、互いの意見を共有し、自分と違う考えがたくさんあることをつかませたい。

行動面を確認すると、校内で定期的に行っている避難訓練から「お（おさない）す（すばやく）し（しずかに）も（もどらない）」を守った避難行動はできる。しかし、2年生の児童においては、すばやく校庭に逃げるというイメージが強く、地震が起きたら、場所に関わらずとにかく急いで逃げるといった行動姿勢が身についてしまっているようである。まず周囲を確認しながら、適切に自分の安全を守るといった安全行動ができるようにさせたい。

（3）指導構想

今回の学習では、1時間目で、大きな被害をもたらした阪神淡路大震災の写真や映像を見せ、地震が起きたときに、一次災害、二次災害ともに、どんな危険なことがあるのかを自分たちで考えさせ、地震の怖さを感じさせたい。また緊急地震速報の意味や基本的な安全行動もつかませたいと考えている。

2時間目で、学校内においてどこでどのような危険が起きるかを考えさせ、同時にどのように避難すればよいかをワークショップ型で考えていきたい。また、実際の災害時には、様々な状況でのジレンマを伴う重大か即座に判断や決断が多いため、クロスロード的にジレンマを伴う質問を用意して、いろいろな考えを引き出さる。さらに学級内において自分にはなかった考えを互いに共有し、防災における思考・判断力を高めていきたい。

3時間目では、生活科の「町探検」の学習で作った町の地図を使って考えさせる。生活科の学習では自分たちの町に愛着をもつとともに、自分の町にはどんな植物や動物がいて、町にはどのような特徴や工夫があるのかを学んだ。そのときに「安全」にも視点をもたせ、地震が起きたときに危ないところは、どんなところかなども考えてきた。その経験を生かし、2時間目と同様の学習を学校外の状況下（生活科で学習したときに制作した地図）で行い、自分たちが住んでいる町の危険な場所とできるかぎり適切な避難行動を考えさせていきたい。また、ジレンマを伴う質問では、だれもが悩んで仕方ないものを用意し、適切な行動はどうすればよいかを最終的には家族で話し合わせるようにしていこうと思う。この学習をきっかけに、家族で防災についてもっと話し合ってもらいたいと願っている。

（4）単元構成について

限られている特別活動の時数の中で、学級活動といえども安全指導を中心にして学習を繰り広げるのは難しい。地震防災に限らず、児童を取り巻く安全面の状況を考えると、風水害や火災の防災教育、交通安全教育、不審者や変質者などの防犯教育、事故やけがの防止教育など、指導すべき点が多岐にわたっている。しかし、防災教育を充実させる必要が迫られている今、限られた時数の中での指導方法を考えていかなければならない。

そこで本単元は、生活科の学習との連携を図ることとした。生活科で使用した学校探検の地図、「町探

検」で制作した町探検の地図を使うこと、町を探検する際に、安全面についても考えていくことなども取り入れていく。

3 児童の実態（2年2組 男子12名 女子8名 計20名） 平成25年7月18日現在

(1) 【意識面】

① 大きな地震が起きたら、こわいですか。

ア：とてもこわい 10名（50%）

イ：こわい 4名（20%）

ウ：どちらでもない 1名（5%）

エ：あまりこわくない 5名（25%）

オ：ぜんぜんこわくない 0名（0%）

(2) 【知識面】

② 年長の頃に起きた大きな地震を覚えていますか。（東日本大震災）

はい 14名（70%）

⇒どんな気持ちでしたか

- ・とても怖かった（8名）
- ・家族が死んでしまうかも（4名）
- ・みんな死んでしまうかも
- ・地球が壊れるかも

いいえ 6名（30%）

③ 大きな地震が起きたときのために、家でどんな準備をしていますか。

避難グッズのセットを用意している 1名（5%）

倒れないように家具を固定した 3名（15%）

していない わからない 16名（80%）

④ 大きな地震が起きたときに家族で集まる場所を決めていますか。

前に家で話して決めている 1名（5%）

決めていない 19名（95%）

⑤ 災害伝言ダイヤルを知っていますか。

知っている 0名（0%）

知らない 20名（100%）

⑥ 災害伝言板を知っていますか。

知っている 0名（0%）

知らない 20名（100%）

(1) 【思考力・判断力】

⑦ 大きな地震が、登校中や下校中に起きたとき、どんなあぶないことが起きると思いますか。

- ・学校が倒れる
- ・津波が来る
- ・木が倒れてくる
- ・電柱が倒れる

- ・地面にひびが入る
- ・ビルやマンションが倒れる
- ・建物が倒れる、地面が割れる
- ・壁が崩れる
- ・プールや川の水が地面にこぼれる
- ・わからない 11名 (55%)

⑧ 大きな地震のあとに困ることはなんだと思いますか。

- ・地面から水が出てくる
- ・津波がくる
- ・もう一回地震がくる
- ・電車が止まる
- ・家が倒れる
- ・電柱が倒れて、道が通れなくなる
- ・建物が倒れてくる
- ・ビルが倒れる
- ・ガラスが割れる
- ・液状化現象が起きる
- ・わからない 10名 (50%)

⑨ 大きな地震が起きたら、家の中でどんなことが起きると思いますか。

- ・テーブルが崩れる
- ・ものが落ちてくる
- ・電話が繋がらない
- ・鏡が倒れる
- ・いろんなものが落ちてくる
- ・家のフィギュアがいっぱい倒れてくる
- ・電気が落ちてくる
- ・冷蔵庫が倒れる
- ・戸棚が倒れる
- ・わからない 11名 (55%)

⑩ 大きな地震が、登校中に起きたらどうしますか。

- ・近くの家や公園に逃げる
- ・近くの店に入る
- ・友達の家の人に言う
- ・すぐ友達に知らせる
- ・セーフティウォッチャーに言う
- ・すぐ学校に行く (校庭に行く) 3名 (15%)
- ・学校に近いときは学校へ逃げて、家に近いときは家に逃げる
- ・少し待って、揺れがおさまったら逃げる
- ・津波が来るかもしれないので高いところへ逃げる
- ・急いで高いところに避難する
- ・近くのビルに逃げる
- ・わからない 7名 (35%)

⑪ 大きな地震が、下校中に起きたらどうしますか。

- ・逃げる (避難する) 7名 (35%)
- ・避難所に逃げる 2名 (10%)
- ・建物があまりないところへ行く
- ・安全な広場へ走っていく
- ・近くの家や公園に逃げる
- ・建物に逃げる
- ・コンビニに行く
- ・急いで家に帰る
- ・学校に近いときは学校へ逃げて、家に近いときは家に逃げる

- ・近くの店に入る
- ・学校の屋上へ行く
- ・友達の家の人に言う
- ・高いところへ逃げる

⑫ 大きな地震が、バスやモノレールに乗っているときに起きました。

あなたはどうしますか。

- ・モノレールには滑り台があるから大丈夫
- ・みんなと同じ行動をする
- ・大人の指示を聞く
- ・とにかく降りる
- ・運転手の言うことを聞く
- ・何かものにつかまる
- ・運転手に言う
- ・わからない 13名 (65%)

⑬ 大きな地震が、家に一人で留守番中に起きました。あなたはどうしますか。

- ・となりの人と一緒に避難して、携帯で家の人に連絡する
- ・携帯を持って外に出る
- ・電話で連絡する
- ・外に出てみんなに助けを呼ぶ
- ・外に出る
- ・机の下にかくれる
- ・わからない 13名 (65%)

⑭ 大きな地震が、学校で休み時間中に起きました。あなたはどうしますか。

○教室や廊下など校舎内にいるとき

- ・先生の言うことを聞く 2名 (10%)
- ・体育館に避難する 1名 (5%)
- ・校庭に行く 15名 (75%)
- ・避難訓練と同じように動く 1名 (5%)

○校庭にいるとき

- ・そのままにいる 18名 (90%)
- ・先生の言うことを聞く 2名 (10%)

○トイレにいるとき

- ・我慢して校庭すぐに逃げる 16名 (80%)
- ・ティッシュを持って逃げる 1名 (5%)
- ・友達に先生に伝えるように言う 1名 (5%)
- ・わからない 3名 (15%)

⑮ 大きな地震が、校外学習や家族で旅行に行ったときに起きました。

あなたはどうしますか。(参考)

○海

- ・すぐに安全な場所を探して逃げる 4名 (20%)
- ・水陸両用の自動車を使って逃げる
- ・すぐに高いところへ逃げる 5名 (25%)
- ・船が助けにくるのを待つ
- ・急いで逃げる 3名 (15%)
- ・とにかく泳ぐ
- ・浜辺に逃げる
- ・車に逃げる
- ・ボートで逃げる
- ・町に逃げる

・お店に逃げる

○川のそば

・川から遠ざかる 1名(5%)

・わからない 19名(95%)

○山

・すぐに山を下りる

・山に登る

・ヘリコプターでの救助を待つ

・山小屋に入る

・わからない 16名(80%)

○高いビルの中

・すぐにビルから逃げる(離れる)
3名(15%)

・屋上に行く 2名(10%)

・助けを待つ 1名(5%)

・下の階に下りる 4名(20%)

・津波が来たら上に行く 1名(5%)

・上に登ってヘリコプターを待つ 1名(5%)

・わからない 8名(40%)

[実態調査からの考察]

(1) 意識面について

①の「大きな地震が起きたら、こわいですか」については、「どちらでもない」、「あまりこわくない」という回答を合わせると6名(30%)もいる。この理由は東日本大震災から2年半以上過ぎているせい、地震に対する恐怖感が薄れてきていること、また当時を振り返っても、千葉市稲毛区では家や道路が倒壊したり、火事や津波が起きたりするような大きな被害はなかったことから、地震の怖さを実感していないようである。大きな地震が起きると、どのような危険が起きるのかを想像できるように、被害の様子の写真や映像などを通して、災害に対する意識を変えられるような学習を取り入れたい。さらに、首都直下地震の話なども取り入れ、災害と真剣に向き合った学習にしていきたい。

(2) 知識面について

知識面を確認すると、防災の知識がほとんどない。特に、何か大きな災害があったときに集まる場所を決めていなかったり、防災について話し合っていない点や懸念される。このことから、学習の中に大地震が起きたときのいろいろな危険を考えさせ、できるだけ適切な行動を考えさせるような取り組みをしていきたい。家族がバラバラになったらどうなるのかを考えさせ、必要なことは何かを考えさせる。または、大地震により停電になったり通信不能になったりした場合、そばに先生や大人がいなかったときにどうやって連絡を取り合えばいいかなど、具体的な場面や状況を提示し、どのような行動や対応をしたらよいかを考えさせたい。

(3) 思考力・判断力について

⑦の「大きな地震が、登校中や下校中に起きたとき、どんなあぶないことが起きると思いますか。」、⑧の「大きな地震のあとに困ることはなんだと思いますか。」、⑨の「大きな地震が起きたら、家の中でどんなことが起きると思いますか。」については、「わからない」という回答が半数以上を占めている。学区内では耐震、免震と設備を充実してきている家庭も多く、東日本大震災においては大きな被害はなかったかもしれない。だから知識面とつながるところがあるが、怖くないという家庭も、ある程度の防災知識を備えていなければ、大地震が起きたら「どうなるのか、どうするのか」という手順を踏めない。本単元は、目標として、上記のとおり、思考・判断力・さらには実践力を高めると考え

ているので、そのための前提でいろいろな知識を身につけさせていこうと思う。

⑩の「大きな地震が、登校中に起きたらどうしますか。」、⑪の「大きな地震が、下校中に起きたらどうしますか。」については、「〇〇に言う」という回答がある。「誰かに言えば助かる」という考えかもしれない。低学年の児童にとっては、当たり前な考えだと思う。ただ、誰かに言えば安心感は得られるが、助かるという保証はないということを伝えることと、自分の命は自分で守るという意識をもたせなければならない。また「建物（家）に入る」という答えもある。確かに、耐震、免震構造の建物の中は安全かもしれないが、入るときに高いところから瓦が降ってきた、家の前の塀が崩れてきたなどということも考えられる。そういったところにも着目させたい。

⑬の「大きな地震が、家に一人で留守番中に起きました。あなたはどうしますか。」では、2年生の児童に「自分の命は自分で守る」という意識をつけさせるには、発達段階的に難しい。誰かに連絡する、誰かを呼ぶと言った答えが多く、すぐに机の下に隠れるというような回答を出したのが一人しかいない。意識を高めることを大切に、「すぐに机などの下にもぐる」「出口を確保する」「頭を守る」というような安全行動を確認させていきたい。

また、間違った知識は訂正する必要がある。携帯電話がつながる前提で「携帯で連絡する」など答えている児童がいることがわかる。東日本大震災のときに、通信網が寸断したという経験をしていないからだろう。通信不能だけでなく交通渋滞、停電、断水など、ライフラインがシャットダウンしてしまうこともあるということも伝えたい。

⑭の「大きな地震が、学校の休み時間中に起きました。あなたはどうしますか。」については、避難訓練で児童がイメージしていることは何かがわかる。「まず校庭に逃げる」ということだ。校庭に行くということ以前に、「すぐに机などの下にもぐり頭部を守る」また、「転倒しないように体を低くしたり、つかまったりする」行動をとることが自分の命は自分で守るうえで大切であることを伝えなければならない。そのため、授業の導入時に緊急地震速報の訓練、シェイクアウト訓練を取り入れていれ、地震直後の行動を身に付けさせたい。

思考判断力を高めていくうえで、互いの意見を共有し合う場も大切にしたい。自分の考えと友達の考えとの比較をすることで判断力の強化にもつながると思う。また、教師から出されたジレンマを伴う質問を考えて、自分で判断して行動する力を養いたい。

4 題材の目標

- 大地震の怖さや、いろいろな災害（一次災害、二次災害）があることを知る。
- 自分の命を守るために、自分で考えて、判断し、行動できるような態度を育成する。
- 学校や通学路で大地震にあったときの被害を想像し、その対処の仕方を考えることで、思考・判断力を高め、実践力につなげていく。
- 家族や身近な人々の安全も考えて、進んで協力しようとする態度を身につける。

5 題材の構成（3時間扱い）

	学習の目標	学習内容と活動	時配
1	大地震の怖さを写真・ビデオから知るとともに、学校	○大地震の怖さや危険を知る。 (立ってられない、物が倒れたり、落ちてきたりするなど)	1

	内外で地震が起きた場合の避難行動をつかむ。	○大地震によるいろいろな災害を知る。 (交通渋滞、電話が繋がらない、停電、断水など) ○学校や家庭で大地震が起きた場合の避難行動をつかむ。 ○緊急地震速報の意味ととるべき避難行動をつかむ。 ○シェイクアウト訓練を行う。	
2	学校内で大地震が発生した場合に、どのような被害や危険があるかを予想し、どのように対処したらよいかを考え、思考・判断・実践力を高める。	○導入時：シェイクアウト訓練の確認 ○教室内、廊下にいるとき、休み時間に図書室にいるとき、トイレ（個室）など、校内にいるときに大地震が起きた場合にどうなるかを予想する。 ○安全な避難行動について考える。 ○ジレンマを感じさせる問いかけから、自分なりの判断をする。	1
3	大地震が発生した場合に、学区内でどのような被害や危険があるかを予想し、どのように対処したらよいかを考え、思考・判断・実践力を高める。	○導入時：緊急地震速報による訓練 ○学区別に分かれ、生活科で作った町の地図を使って、大地震でどのような被害ができるかを予想して地図に付箋を貼る。また、安全な対処の仕方を考えて付箋を貼る。 ○意見の共有を大切にし、別学区の意見を取り入れ、新しい発見や、思考に広がりをもてるようにする。 ○ジレンマを感じさせる問いかけから、自分なりの判断をする。	1 (本時)

5 本時の指導（3／3）

ねらい：大地震が発生した場合に、学区内でどのような危険や被害があるかを、地図を使ってグループ内（5、6人の通学路方面別のグループ）で予想させ、どのように対処したらよいかを考えさせて、思考・判断・実践力を高める。

<展開>

時配	学習活動	○教師の支援・指導上の留意点	資料
導入 5分	・廊下に出て、緊急地震速報を使った訓練をする。	○学習に入る前に、あとの活動がスムーズになるように通学路別で、グループを構成しておく。 ○緊急地震速報のCDを使って、緊急地震速報を流す。 ○隣の自教室に入り、自分の机に入って身を守ってもよいとする。 ○前時までに学習した大地震のときに立ってられない状況を想起させ、校内だ	・CD ラジカセ ・緊急地震速報のCD ・シェイクアウト訓練の掲示物

5分	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災の被害写真を見る。 	<p>けでなく、校外での安全な行動を確認する。わからない児童のために、掲示物を用意しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家が倒壊する、マンションが傾く、店のガラスが割れる、車の運転ができないなど、直下型地災である阪神淡路大震災の写真の中から、小中台南小学校近辺（学校外）で起こりうる被害に関連する写真を選んで、児童に見せるようにする。 ○二次災害についても簡単に説明を行い、様々な災害が起こることを知らせる。 ○建物や地形などの状況によって災害の状況が変わってくることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災の写真 ・テレビ
<p>大きなじしんが、ほうかごに起きました。そのときあなたは外にいました。あなたの町では、どんなあぶないことがおきるでしょう、また、そのときどうすればよいか考えましょう。</p>			
展開 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路方面別に分かれた班で起こりそうな被害を考え、話し合わせピンク色の付箋に自分たちの意見を書いて地図に貼り付ける。 ・被害に対する対処法を考え、水色の付箋に書いて地図の上に貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班の児童になぜそう考えたのかを述べさせ、その場所の地形や状況などをつかませる。 ○危険回避行動については1つだけに絞らず、ふさわしい行動が複数あれば、書いてよいこととする。 ○様々な意見を共有させるために、活動の様子からいろいろな考えを拾い上げ、全体の場で発表するように指示する。 ○児童の意見を尊重するが、いつ大地震が起こってもより適切な行動がとれるようにするために、教師は意見が不足していれば付け足す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で作った地図 ・付箋（大・中） ピンク色（危険） 水色（対処法）
20分	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表者は、自分たちの地図を使って、被害場所や危険回避行動を説明し、みんなで話し合う。 ・ジレンマを伴う質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断力を深めるために、教師が用意した質問を考えさせる。何人かに答えさせ、自分で判断して行動することの大切さを伝える。 ○ジレンマを伴う質問は、学区内で考えられる被害を思い浮かべさせるようなも 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ

	<p>・まとめを行う。</p>	<p>ので、いろいろな回答が出せるような状況を想定したものとする。</p> <p>○あえてどれが正しいかを明確にせず、いろいろな考え方や判断があることを認め合わせるとともに、家族でも話し合っ て、家族での防災意識を高めるようにする。</p> <p>○今後も防災について友達や家族と話し合っ て、自分の身を自分で守ることができるようにしてほしい旨を伝える。</p>	
--	-----------------	---	--

質問（案1）

○あなたは今、上り坂をのぼっています。左には2かいぐらいの高さのがけがあり、フェンスもあります。右には少し高いブロックべいがあります。前から車がやってきました。そのときです。地面が、なみうつような大きな地しんがおきました。

地しんはつづいています。車はまだ近づいています。

あなたは、車とはんたいのほうこうに走ってにげますか。

「YES OR NO」



質問（案2）

○クジラ公園のトンネルの中で友だちとあそんでいたときに大きな地しんがおきて、トンネルがくずれました。自分は助かりましたが、友だちは、トンネルのがれきの下じきになり、「いたいよー。たすけてー」と泣きながらさげんでいます。まわりを見ると団地のガラスがわれていたり、まだ団地ぜんたいがたおれそうにグラグラとゆれていたりするのが、見てわかります。

あなたはすぐに友だちを助けますか。YES OR NO



質問（案3）

○あそびからかえろうとしたときに、学校で学んだとおりの地面がなみうつほどの大きな地しんがおきました。あなたの家は、このほそい道を歩き、3分くらいのところにあります。ですが、地しんのせいで道ろのはしのかべがくずれていたり、ところどころガラスがわれてちらばっています。電ちゅうもまがりました。

あなたは家にかえりますか。YES OR NO

